

志す宇宙は無限 5月号

発行：楠隼高等学校 宇宙部

新入部員 獲得に成功！ ～新生宇宙部～

宇宙部に新たに1年生3名が加わった。昨年度3年生が引退して以降1名で活動が続けてきた宇宙部。部員獲得は大きな前進だ。

新入部員は中学宇宙技術部で活動が続けてきた、片平隼斗君（鹿児島県出身）と森啓太君（東京都出身）、宇宙分野は全くの素人という片山颯達君（岡山県出身）の計3名。中学校で培った技術力と幅広い思考力を生かし、宇宙部の発展につなげてほしい。

新入部員獲得に成功した部長の米満恭平さんは「とてもうれしい。今後の宇宙部を任すことのできる人たちだ。楽しみながら宇宙を盛り上げていってほしい」と笑顔で話した。新入部員の片山颯達



↑新入部員の1年生3人 =部室にて

君は「ロケットの打ち上げには憧れがあった。今後は宇宙部の一員として部活の潤滑油になりたい」と話した。片平隼斗君は「部長を越えられるように頑張りたい。部長の座を狙って全力で頑張る」と意気込みを語った。森啓太君は「今後の宇宙部の発展が楽しみ。いろいろなことにチャレンジしていきたい」と話した。「新生宇宙部」として、再スタートした宇宙部の活躍に期待大だ。

てげてゲハイスクール 出演しました！

先月23日にMBCラジオ「岩崎弘志のてげてゲハイスクール」に部長の米満恭平さんが出演した。2月に掲載された南日本新聞の記事を受け、出演が決定。岩崎弘志さんと約1時間、マンツーマンでの放送だった。部長の米満恭平さんは、「部員が増えて最初のメディアだった。部員獲得に成功したことを報告できて本当に良かった。機内アナウンスなど、私の特技もアピールでき、とても充実した1時間となった。THE TIME の中高生ニュースで出演できれば、ロケットの打ち上げ風景なども全国の皆さんに届けることができる。ぜひ、出演したい」と語った。多くのメディアを通じて、宇宙部の魅力を全国に発信していきたい。放送の概要はMBCのホームページでも確認できる。ぜひ検索してほしい。



↑放送中のようす =スタジオにて

NASA 火星の環境に近い実験施設公開

先月11日、NASA（アメリカ航空宇宙局）は火星に似せた環境の中で人が1年間生活する実験を行う施設を公開した。広さは約160平方メートル。中には個室の寝室が4部屋、共同で使うシャワーやリビングルーム、実験施設も備えられていて、野菜の栽培を行う装置もある。建物の外には火星の環境に似せた赤い砂を敷き詰めた広さ約110平方メートルほどの空間が用意されており、火星での長距離移動のシミュレーションなどの実験もするようだ。

NASAは6月から、ボランティアの参加者4名がおよそ1年間、この施設の中で生活する実験を行う計画で、健康状態などを調べ、将来の火星での有人探査に生かす予定。このニュースを見た楠隼高校2年の林海翔さんは「地球からものすごく離れた火星についての研究がここまで進んでいることに感動した。アクシデント等もあるかもしれないが、アルテミス計画の成功のために頑張っしてほしい」と話した。「映画のシーンが実現されるとは驚きだ。映画のように髭を伸ばしながら、野菜の栽培をしてみしてほしい」と期待を込める生徒もいる。NASAは「アルテミス計画」で2025年までに友人月面着陸を目指しており、今後の開発に目が離せない。

やってみよう！ 身近な宇宙

『こんな技術が宇宙で！
宇宙の技術がこんなところで！』

皆さんに身近なものの中には、宇宙開発の技術に活用されているものや宇宙技術を身近にしたものなどがあります。

今回は一例として「ミウラ折り」を紹介します。

左の写真のように折られた地図を見たことがあるでしょうか。この折り方こそが今回のテーマ「ミウラ折り」です。



「ミウラ折り」は航空宇宙工学者の三浦公亮さんが考案した紙の折り方です。

対角線上に力を加えると一瞬で折りたためてしまうのです。この技術を応用して、宇宙に太陽光パネルを小さく折りたたんで持っていき、宇宙空間でぱっと広げるような技術が開発されました。宇宙空間ではできる限り簡単な作業で効率的に行いたいのです。エネルギーの源となる太陽光パネルを一瞬で開くことは開発者にとっては嬉しいものです。

ほかにもさまざまな技術が宇宙開発に应用されています。ぜひ、検索したり、研究したりしてみてください。新たな発見になるかもしれませんよ！

宇宙からのささやき

挑戦者がいて危険や失敗の末に成功して、新しい世界が開けた。

野口聡一

行動しなければ、何も変わらない。
きっと地道な活動が大きな花を咲かせると信じている。
挑戦し続けられる人でありたい！！

宇宙の声

令和5年度がスタートして1か月が過ぎました。美しく咲き誇っていた桜もあつという間に散ってしまつた4月も終わり、新年度の忙しさも少しずつ落ち着き始めるころではないでしょうか。

宇宙部も部員獲得の勝負の1か月として、全力で勧誘しました。おかげさまで、3名が新入部員として宇宙部に加わり、5月から4名で活動します。頭脳も手もこれまでの4倍となり、作業が円滑に進むようになりました。頭が3つ増えることは、これまでなかったものの見方ができるようになり、大きな影響力があると感じています。お互いにアドバイスを出し合い、時には文句を言いあうなど、部活動らしい活動ができるようになりました。メディア等の協力もあり校外の方々にも活動を伝えることができます。本当にうれしいです。

本紙の発行を続けてきたこと、メディアや活動をサポートしてくださる方々がいたことなどが1人で活動をし続けることができ、「部員獲得」という目標を達成につながったのだと思います。本当にありがとうございます。しかし、これはまだ中盤戦でしかありません。

宇宙部はこれから新たなスタートです。新型コロナウイルス感染症で参加できていなかった大会やイベント等も少しずつ復活し始め、活動の幅が広がってきました。様々な活動を通じて「新生宇宙部」として、皆さんに宇宙の楽しさ、面白さを伝えながら、これまでに支えてくださった方々の期待に少しでも答えることができるよう、頑張ります。

ご愛読ありがとうございます！！

いつも宇宙部を応援していただきありがとうございます。肝付町にも「宇宙のまちづくり推進課」が新設され、県内外、多くのところが宇宙に力を入れ始めています。私たちも宇宙の魅力を発信し続けたいと思い、日々、活動を模索しているところです。何か新しい取り組みを、私たちと一緒にしてみませんか。幅広い活動ができるようにしていきたいと考えています。ご検討をよろしくお願いいたします。

楠隼高等学校 宇宙部